

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科

入試問題（造形実技）参考解答集

造形実技試験の解説

本学科では、一般選抜（後期日程）において造形実技試験を行っています。

- ・ 試験時間：120 分
- ・ 大学で用意するもの：デッサンボード（解答用） ほか
- ・ 受験生が用意するもの：黒鉛筆，消しゴム，羽根ぼうきまたはブラシ

令和 7 年度の造形実技試験では，以下の 5 項目について評価を行いました。

- ・ 理解力：試験問題の指示内容を正しく理解できているか。
- ・ 構想力：明確な考えにもとづく解答が示されているか。
- ・ 創造性：与えられた条件のもとで形をつくり出すことができ，創意工夫や独自性が作品に見られるか。
- ・ 構成力：構成の意図が明快で，審美性がある空間となっているか。
- ・ 表現力：質感や陰影の表現にすぐれているか。また，視点や視界の設定にすぐれているか。

次のページから、過去に出題した問題の解答例を参考にして，ポイントを解説します。

滋賀県立大学 入試情報	http://www.usp.ac.jp/japanese/campus/nyushi/index.html
環境科学部	http://www.ses.usp.ac.jp/
環境建築デザイン学科	http://dda-usp.com/

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集
令和7年度一般選抜(後期)試験

【問題】

「立体 A」1 個, 「立体 B」3 個を, 全て用いて, 平坦な地面の上に空間を構成せよ。解答にあたっては, 下記の各立体の仕様をふまえ, 手順の指示に従いデッサンボードに描け。問題・仕様・手順に記されていないことについては, 自由に構想してよい。

＜立体 A の仕様＞

- ・直方体の形をした骨組みで, 「立体 A」全体の大きさは $4\text{m} \times 4\text{m} \times 6.5\text{m}$ 。
- ・6 面のうち, いずれか 1 面に, 面材が貼られている。他の 5 面には貼られていない。

＜立体 B の仕様＞

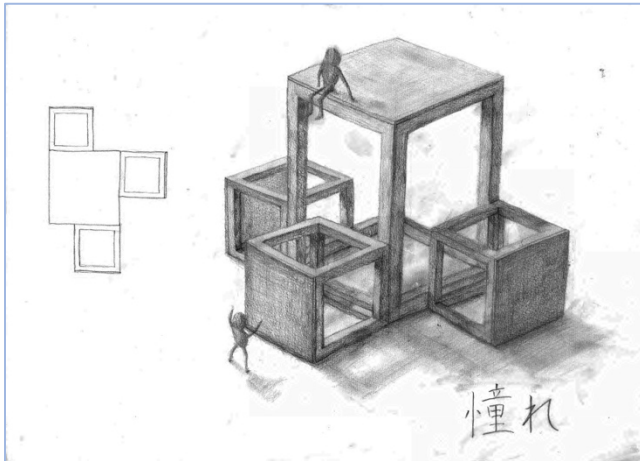
- ・立方体の形をした骨組みで, 「立体 B」1 個の全体の大きさは $2.5\text{m} \times 2.5\text{m} \times 2.5\text{m}$ 。
- ・6 面のうち, いずれか 1 面に, 面材が貼られている。他の 5 面には貼られていない。

＜手順 1＞以上のような仕様をもった「立体 A」1 個, 「立体 B」3 個を, 全て用いて, 平坦な地面の上に空間を構成する。まず, 「立体 A」1 個, 「立体 B」3 個の配置が分かるように, 真上から見た図をデッサンボードに描け。なお, 各立体の部材の, 厚さや太さを考慮して描け。

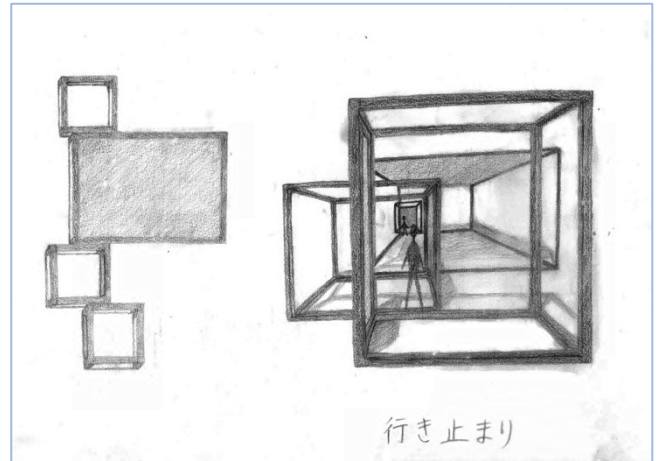
＜手順 2＞手順 1 で構成した空間をデッサンボードに描け。描画にあたっては, 構成した空間の意図や特徴を表すうえで, ふさわしい視点から描くこと。また, 必ず 2 人以上の人物を添え, 構成した空間での様子を描け。なお, 各立体の部材の, 厚さや太さを考慮して描け。

＜手順 3＞描いた空間にタイトルをつけ, デッサンボード内に記せ。タイトルもプレゼンテーションの一部と考え, 適切に表現せよ。

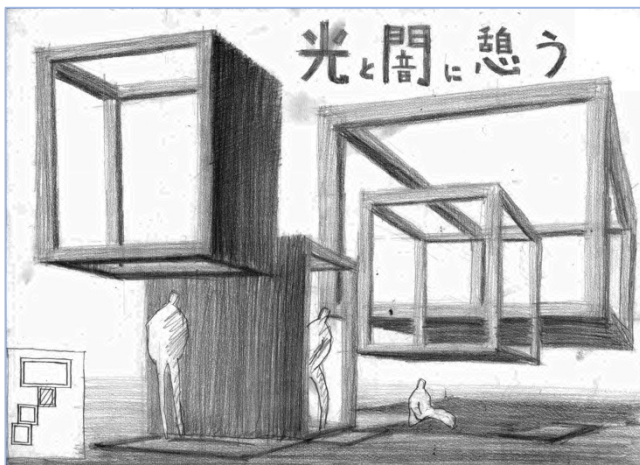
.....



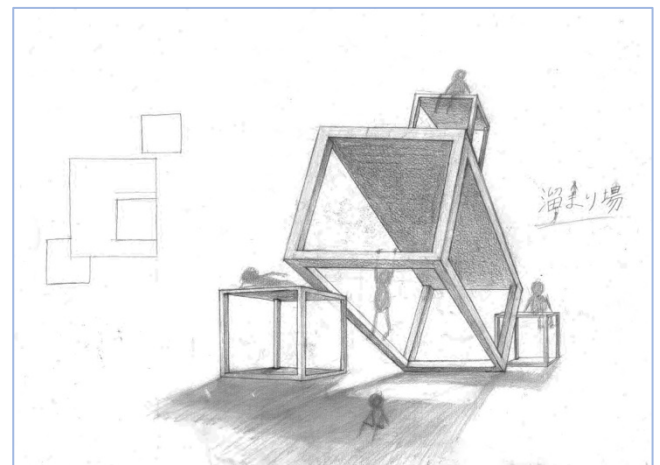
A



B



C



D

理解力:【A、B、C、D】問題の指示内容を概ね正確に把握しています。ただし<手順1>の真上から見た図について、【B、C、D】は立体の大きさが、【D】は立体の形状が不正確です。図形の大きさや形状は、正しく描くように気をつけましょう。

構成力:【A、B、C、D】4つの立体それぞれにどのような役割を期待し、それらの向きや配置によってどのような性質の場所を得たいのか、という意図が明確です。

構想力:【A】大きな立体の周りを小さな立体3つで囲むことで、内向的で大きな空間を構想しており、面材の配置もその意図に適っています。【B】4つの立体を左右にずらしながら一方向に並べることで、奥行きのある廊下状の空間が意図されており、面材は廊下状の空間の輪郭を適切に規定しています。

創造性:【C】作品の主題は、解放(天上からの光)と静謐(身体を包む影)という2種類の場所の対比です。それぞれに2つずつの立体を配し、面材についても垂直方向と水平方向に効果的に使い分けています。【D】大きな立体は滑り台、小さな立体3つはそれぞれの場所の特性を感じるための乗り物のようです。斜面を滑り降りる時の小さな感動が、この作品の主題であると解釈できたため、創造的であると評価しました。

表現力:【A、D】立体の質感や陰影といった表現が巧みで、また主題を表現するための視点の取り方や描写法が適当です。また光の入射角や影の現れ方、面材の質感、人物の向きや振る舞いを工夫することで、【B】廊下状空間の左右に広がる各立体内の空間の差異、【C】天上へ向かう開放感や地面に押し付けられる緊張感のような、それぞれの場所特有の性質をより精確(精細かつ正確)に表現することができるでしょう。

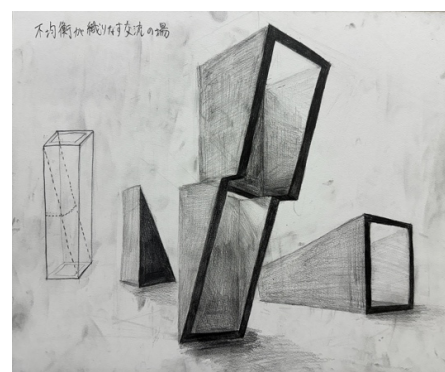
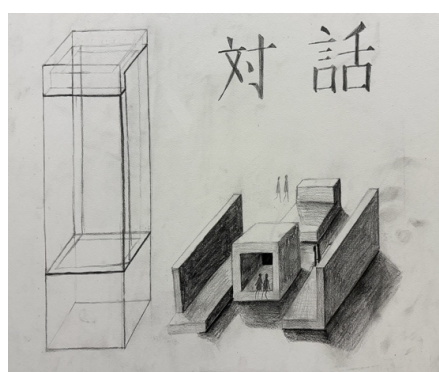
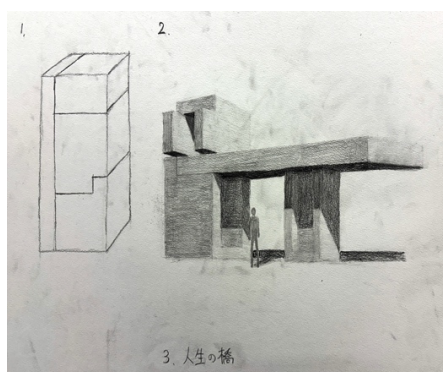
滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集
令和6年度一般選抜(後期)試験

【問題】 3.5m x 3.5m x 10m の直方体 Z がある。直方体 Z の中身は空洞である。各面の厚みは、6 面いずれも厚さ 50cm である。この直方体 Z を切断し 4 つの部材に分割せよ。またそれらを用いて、平坦な地面の上に空間を構成せよ。解答にあたっては、下記の条件すべてをふまえ、手順の指示に従いデッサンボードに描け。問題・条件・手順に記されていないことについては、自由に構想してよい。

〈手順 1・検討〉 直方体をどのように切断し、4 つの部材に分割したのかがわかる図をデッサンボードに描きなさい。

〈手順 2・描画〉 切断した各部材を用いた空間構成をデッサンボードに描け。描画にあたっては、必ず人型のモデルを添えよ。また、構成した空間の意図や特徴を表すうえで、ふさわしい視点から描くこと。

〈手順 3・プレゼンテーション〉 描いた空間構成にタイトルをつけ、デッサンボード内に記せ。タイトルもプレゼンテーションの一部と考え、適切に表現せよ。



解答例: A

B

C

理解力:【A、B】問題の指示内容を正確に把握し、デッサンボード内を過不足なく用いています。【C】〈手順1〉の分割図と〈手順2〉の立体表現がやや不正確です。また人型モデルが欠如しています。

構想力:【A、B、C】分割する4つの立体それぞれに、どのような役割を期待し、またそれらをどのように配置するのか、という意図が明確です。

創造性:【A】2つの部材を壁材、1つを屋根材、1つを柱材として使い分け、画面左側の構造的重心から画面右側へ水平に伸びる空間が清々しいです。【B】3つのベンチ状の立体の形状が、少しずつ異なるところが技巧的です。中央の立体の形状や位置によっては、タイトルの「対話」性をより意図的で豊かなものに昇華できるでしょう。【C】手前の三角柱の上部を水平方向にずらすことで、空間の緊張感を増幅させている点が巧みです。

構成力:【A】直方体の分割方法を少し工夫することで、壁材と屋根材が綺麗に噛み合う接合部が考案されています。

【B】3つのベンチ状の立体を向かい合うように並べ、その間に発生する空間の力を上手に見つけています。

【C】浅い角度に切断することで得られる鋭利な立体の特徴を捉え、ダイナミックな場の力を演出しています。

表現力:【A】凸凹の表情が陰影によって表現されているほか、視点の高さの設定が内部空間を表現するのに適しています。【B】床面に落ちる陰影がやや不正確です。説明的な分割図をより小さく、表現的な空間構成をより大きく描画するのが望ましいです。【C】視点の高さや画角の設定により、力強い表現ができています。

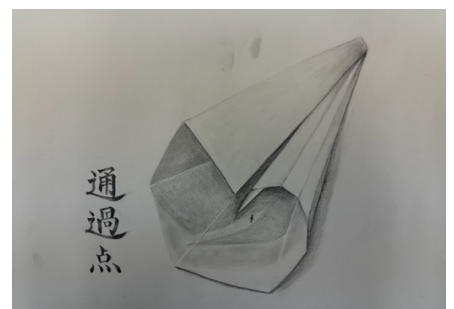
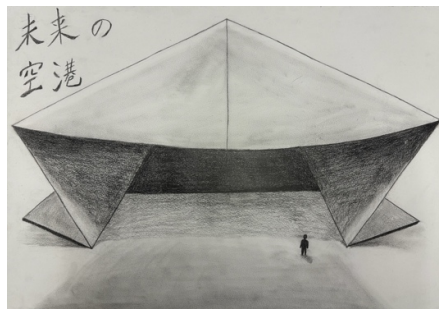
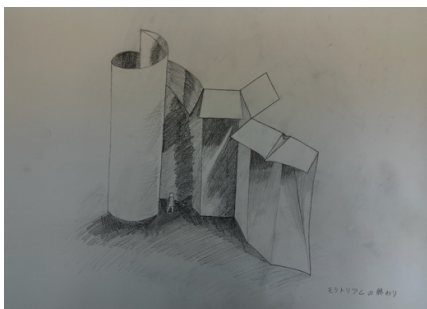
滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集
令和5年度一般選抜(後期)試験

【問題】 以下の手順に従って空間を構成し、デッサンボードに描け。文中にある紙片とは机上に配布された5枚の紙を指し、紙片1枚あたりの大きさはおよそ15cm×21cmである。手順に書かれていないことについては、自由に構想してよい。

〈手順1・検討〉 紙片1枚を折り曲げるなどして、造形物として自立させよ。紙片に切り込みを入れるのは可とするが、切り離してはいけない。残りの4枚は検討作業に用いるなど、自由に使用してよい。

〈手順2・描画〉〈手順1・検討〉で紙片1枚からつくった造形物を100倍に拡大して地面に置いたと想定し、そこにできる空間をデッサンボードに描け。描画にあたっては必ず人型のモデルを添え、検討した空間の構成がわかる視点から描くこと。

〈手順3・プレゼンテーション〉〈手順2・描画〉で描いた空間構成にタイトルをつけ、デッサンボード内に記せ。



解答例:

A

B

C

理解力:【A、B、C】問題の指示内容を正確に把握し、デッサンボード内を過不足なく用いています。

構想力:【A】1枚の紙片を巧みに切断、折り曲げ、表情の異なる複数の空間が構成されています。【B】一枚の紙片の特徴を活かした大きな空間となっています。【C】紙片の特徴をとらえ、直線を使いながらも奥行きのある構成が明確に意図されています。

創造性:【A】折る、切る、曲げるといった紙片の特徴をとらえ、独自の空間が出来上がっています。【B】大きな空間を想起させる表現となっており、1枚の紙片の特徴をとらえダイナミックな印象を与えています。【C】完全に閉じない筒状の空間を通り抜ける構成が奥行き感をもたらしています。

構成力:【A】折り方に変化を持たせながら曲線も導入することで、多様な空間が構成されています。【B】ダイナミックな空間構成で、タイトルにふさわしい空間が出来上がっています。【C】シンプルな構成でありながら、一方を絞ることで空間に奥行きが生まれています。(C)。

表現力:【A、B、C】空間の特徴を客観的に把握していますが、空間の奥行きを示すにはもう少し低い視点の選定が望ましいです。【A】紙片の構成に工夫が見られますが、多様な高さの様子が陰影として表現しきれていません。【B】床面に落ちる陰影が不正確で、表現力に欠けています。【C】床面、及び外部の陰影がやや弱く、構造物としてのボリューム感に欠けます。また、人型のスケールがやや不正確です。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集
令和4年度一般選抜(後期)試験

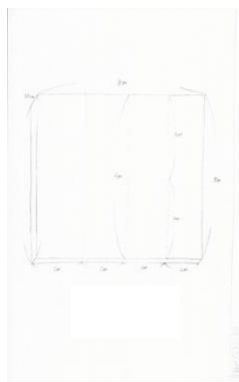
【問題】 8m×8m×50cm の板状の材 A を 5 片に分割し、それらを用いて地面の上に空間を構成せよ。
 解答にあたっては以下の〈条件〉をすべて踏まえ、〈手順〉の指示に従いデッサンボードに描け。問題・
 〈条件〉・〈手順〉に記されていないことについては、解答者において自由に設定すること。

〈条件〉・5 片に分割する線は直線とする。 ・5 片すべてを用いること。 ・5 片以外の部材を用いてはならない。 ・板状の材 A や、分割後の 5 片は、折ったり曲げたりできない。

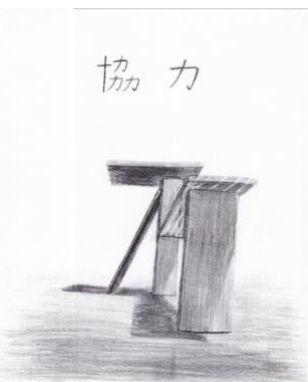
〈手順〉 1. 板状の材 A をデッサンボードに描き、5 片に分割する線を点線で記しなさい。

2. 1.を踏まえて 5 片を用いた空間構成を描きなさい。描画にあたっては、
 構成した特徴を表すうえで、ふさわしい視点を設定すること。

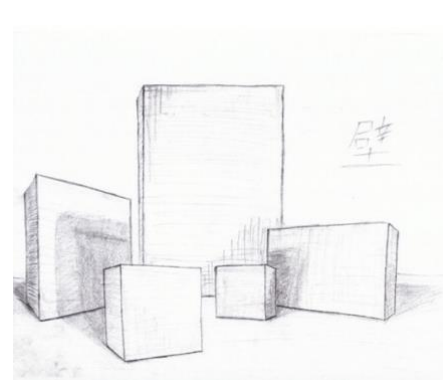
3. 本答案で描いた空間構成のタイトルを考え、デッサンボード内に記しなさい。



解答例 A



解答例 B (抜粋)



解答例 C (抜粋)

理解力：問題の指示内容を正確に把握し、デッサンボード内を過不足なく用いています (A)。部材同士が突き抜けており条件に合っていない (B)。板の厚みが問題文よりも分厚くバラバラでバランスがとれていません (C)。

構想力：切り離れた部材を組み合わせ、お互いを支え合う構築物にしようとする意図が明快です (A)。樹木の下にいる空間の広がり が明確に意図されています (B)。平面上にさまざまな空間をつくらうとしています (C)。

創造性：水平と垂直を明確にし、柱と柱のあいだに大きな空間をもたらしています (A)。造形物全体を斜めに傾けることでダイナミックな印象を与えています (B)。各々のピースはシンプルですが、単調さが際立ち工夫に欠けます (C)。

構成力：横方向からの支えを強調する構成で、奥行きに加えて広がりのある空間であることを表現されています (A)。3 枚の板を互い違いに重ねることで、造形物の下部に陰となる豊かな空間が広がっています (B)。形の異なる 5 枚の板の配置にまとまりがあり、板と板のあいだに生まれる空間を想起させます (C)。

表現力：空間の特徴を客観的に把握し、適切な視点を選んでいます (A・B・C)。板の組み合わせに工夫がありますが、高さの表現が正確ではありません (A)。下から見上げる角度のとり方が、自分が表現したい造形物とその空間の関係を説得力あるものにしていきます (B)。部材に落ちる陰影が崩れており、表現力に欠けています (C)。

滋賀県立大学環境科学部環境建築デザイン学科 入試問題(造形実技)参考解答集
令和3年度一般選抜(後期)試験

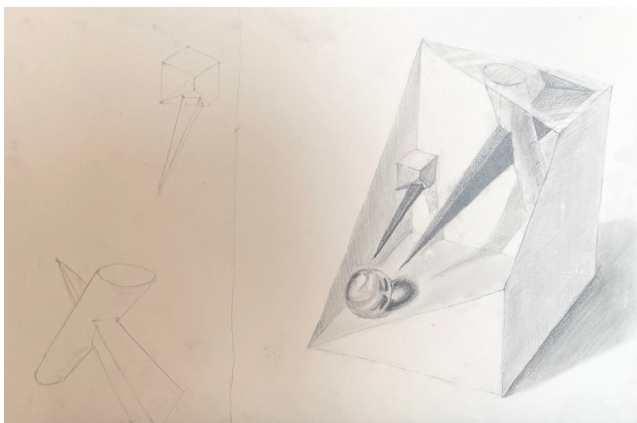
【問題】 次の文章を念頭においた空間を構成せよ。解答にあたっては＜手順1＞＜手順2＞の指示に従い、デッサンボードの画面を分割して描け。問題に明記された内容以外のことについては、自由に設定してよい。

一辺が5メートルの立方体の箱が、平坦な地面に置かれています。この箱には一箇所だけ大きく切り取られた穴があり、穴から入る光で箱の内部の様子がわかります。

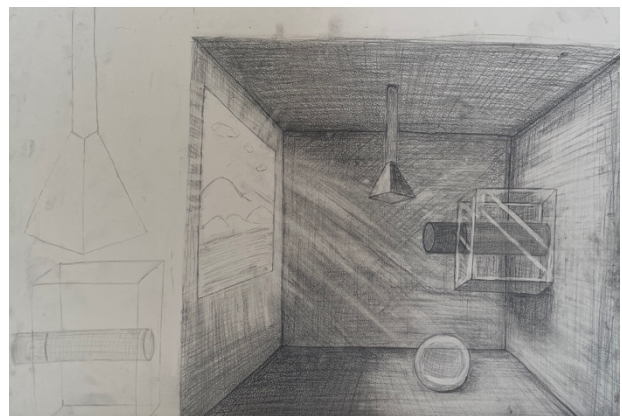
箱の内部には、形も大きさも異なる3つの立体が存在しています。その1つは床面に置かれた直径1メートルの球です。残りの2つの立体のうち、1つは壁面に、1つは天井面に取りつけられています。

＜手順1＞ 箱の内部にある3つの立体のうち、球以外の2つの立体の形状を考案し、それぞれをデッサンボードに描け。

＜手順2＞ ＜手順1＞で考案した立体を含む3つの立体と、穴から差し込む光を念頭において、箱の内部空間を描け。描画にあたっては、構成の意図や特徴を表すうえで、ふさわしい視点を設定せよ。



解答例 A



解答例 B

理解力：問題の指示内容を正確に把握し、デッサンボード内を過不足なく用いています(A、B)。

構想力：球を起点にした立体群の配置に迷いがなく、構成が明快です(A)。住まいを想起させる要素と他の要素の配置のバランス感覚に優れ、まとまりのある空間が意図されています。

創造性：球と対照的な鋭さのある立体を考案し、箱に取り付く箇所に造形的な工夫がみられます(A)。箱の側部に付いた立体を透明な物体で囲い、壁面との対比を強調しています(B)。

構成力：2つの立体が球を指し示す様子が、箱の切り取り方によって強調されています(A)。箱に開けられた窓の位置や大きさが、立体を照らし出す光に説得力をもたせています(B)。

表現力：空間の特徴を客観的に把握し、適切な視点を選んでいます(A・B)。シャープな立体を際出せる箱内部の陰影が秀逸で、後方の影も自然な濃淡を有しています(A)。アイレベルに視点を設定し、窓の外も含めた一体感のある構図となっています。ただし、光線の表現方法には一考の余地があります(B)。